

④ 地域の商工関係団体、農業法人、行政との食や買物弱者など幅広い分野の連携【藤丸百貨店】

| 株式会社 藤丸 | 株式会社アグリファッショングループ |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「藤丸百貨店」は、富山県出身の藤本長蔵氏が、帯広の地に「北越呉服」を創業。その後、地域が発展し、それとともに業容が拡大。</p> <p>百貨店としての歴史は、昭和5年、現在の地に開業した「藤丸百貨店」から。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所在地：帯広市西2条南8丁目1番地 ○ 開店日：昭和57年3月1日 ○ 営業時間：10:00～19:00 ○ 敷地面積：5,241 m² ○ 店舗面積：16,651 m² ○ 延床面積：42,081 m² ○ 設置者：ふじまるビル株式会社 ○ 主要店舗：株式会社 藤丸 ○ U R L：http://www.fujimaru.co.jp/ | <p>帯広の農家女性らが平成27年12月1日、女性の新規就農を支援する農業法人「アグリファッショングループ」を設立。創業者は、酪農業の傍ら、おしゃれな農作業着などを販売する衣料雑貨店「アグリファッション」を営む市内の橋爪理恵さんや、夫の恒雄さんら。</p> <p>第1弾として「十勝ガールズ農場」を市内の農地5ヘクタールを借りて開設。ガールズ農場は、家族経営が難しくなった農家から農地を借り、栃木県出身の沢居恵利さんと苫小牧市出身の高野華瑠菜（はるな）さんが共同農場長として運営。</p> <p>農場長の2人は、酪農学園大の同級生。卒業後、十勝管内での新規就農を目指して新得町の女性専用農業体験実習施設「町立レディースファームスクール」で1年間畑作と畜産を学び、帯広市内の畑作農家でそれぞれ従業員として働いてきた。</p> |

地域の商工関係団体、農業法人、行政との連携のポイント

「藤丸百貨店」は、地域の経済を反映しながら発展してきた地元を代表する企業であり、地域貢献も商工関係団体の中心的な役割を果たしながら取り組んできています。

今回の事例は、地域の最近の動きに合わせて、農業法人や行政との連携を始めた取組です。

藤丸百貨店の状況

昭和5年、当時の帯広は人口が3万人に満たない都市で、「藤丸百貨店」は立地場所も繁華街から外れた場所にありました。

地上4階建ての店舗に、数多くの品揃えや各種文化行事を繰り広げる大ホールなどを有した、帯広初の百貨店でしたので、帯広、十勝管内のみならず、釧路や旭川、北見などからも多くの人を訪れる店舗でした。

その後、昭和57年に「ふじまるビル」を建設し、店舗を移転させ、規模の拡大を図るとともに、地域に根ざした店舗運営により、地元の人たちからは「藤丸さん」と親しみを込めてと呼ばれています。

取組の背景

「藤丸百貨店」は、地域の発展とともに大きくなった地場企業としての強い思いがあり、地元とのネットワークを大切に、商店街や町内会・各種団体との横の連携を活かした取組を長年にわたり続けてきました。

こうした取組が脈々と受け継がれてきたことから、「大型店と地元の対立」はなく、長い歴史の中

で積み上げてきた成果が次第に広がってきました。

経済環境が厳しい大型量販店・百貨店業界ではありますが、「藤丸百貨店」は地域とともに発展してきた思いから、地域のイベント等の協力要請には積極的に応じてきました。

取組の内容

「藤丸百貨店」は、町内会・商店街の一員として、地域とともに様々な連携した取組を行ってきました。

「帯広平原まつり」には、店舗内の催事場でイベントの開催等による参画をはじめ、「中心市街地に交流、にぎわいを取り戻そう」という目的で平成18年に始まり十勝帯広を代表するイベントに成長した「帯広まちなか歩行者天国」、「オビヒロホコテン」では、当初「藤丸百貨店」が実行委員長を務めるとともに、現在も協賛企業として人的支援も含めて積極的に参加しています。

毎年11月下旬から翌年2月中旬までの間で行われている「おびひろイルミネーション」では、店舗前の広場で開催される合同点灯式や、約100人の園児がサンタクロースに扮してのパレードが行われる「X'mas Fantasy」などのイベントへの参加等を行っています。

「十勝ガールズ農場」との連携

「藤丸百貨店」では、平成28年8月に「十勝ガールズ農場」が「とちかち農業女子マルシェ」を「藤丸百貨店」で開催したことをきっかけに、同年10月に、「十勝ガールズ農場」を運営する農業法人「アグリファッショングループ」と「包括連

携協定」を締結しました。

「藤丸百貨店」の地下1階の青果店「九州屋」に「十勝ガールズ農場」の野菜を販売するコーナーを設置するとともに、農産物を百貨店のギフト商品に取り入れ、十勝の農業を広く情報発信しています。

農閑期の11月～3月には、「十勝ガールズ農場」の農場長を「藤丸百貨店」に派遣して自社農産物の試食販売を行い、販売を学ぶとともに野菜の魅力を消費者に直接伝え、どんな農産物が求められているのかを把握して、次の栽培計画に活かしています。

さらに、「アグリファッショングループ」では、「藤丸百貨店」で自社のアウトドアブランド衣料や雑貨の販売も行い、「農業ビジネスコンサルティング事業」の窓口も開設する予定となっています。

帯広の中心市街地の「藤丸百貨店」を、農業者との交流や新たなビジネス創出のきっかけの場にしています。

高齢者向けの新たな取組

「藤丸百貨店」では、一人暮らしの高齢者や車いす利用者など、荷物を持った買い物が一人では負担となる方を支援するため、平成28年1月から「介護タクシー事業」を行っている「十勝中央観光タクシー(株)」と連携したサービス「ラクラク藤丸お買い物サポート」を開始しました。

介護ヘルパーの資格を持った運転手が介助のノウハウを生かして、「藤丸百貨店」と自宅の送迎や、荷物の持ち運び、店内の車いすでの移動など、1人での買い物が負担となる方の支援を行っています。

その他、「藤丸百貨店」は地域の商工関係団体等へも積極的に加入するとともに、帯広市や帯広商工会議所とも密接に連携し、イベントや各種検定の実施、接客販売コンテストなどを開催してきました。

また、店舗8階の場所を帯広市に提供し、「市民活動交流センター」が開設されています。

今後の展開

十勝地域は農業が堅調であるものの、高齢化の

進展など、経済環境が厳しい状況が続いています。

百貨店の使命は「生活を楽しむお手伝い」であると考え、今後も、ワンランク上の食材や衣服、食器など百貨店の強みである高級感や新しさを重視していくこととしています。

さらに、十勝地域のブランドである乳製品、農畜産加工品、スイーツなどの地場産品についてはパッケージングも含め、メーカーに負けない商品づくりを提案しています。

高齢者向けサービスについては、平成28年度に「ラクラク藤丸お買い物サポート」を開始したところですが、その効果は道半ばという状況です。

今後、ますます高齢者が顧客の中心になっていくことから、次の段階のサービスの展開も必要となっています。

「藤丸百貨店」では、十勝地域の食材や特産品のPR、販売促進など、地域密着路線強化の一環として、平成28年11月、十勝総合振興局と「包括連携協定」を締結しました。

藤丸百貨店と十勝総合振興局の包括連携協定の概要

- 食の振興に関する事項
 - ・十勝の食の販路拡大
 - ・食に関する制度の普及拡大
- 安全・安心な地域づくりに関する事項
 - ・子どもの安全・安心に関する事項
 - ・災害発生時の協力
- 子育て支援に関する事項
 - ・子育て支援に関する事項
 - ・少子化対策の普及啓発に関する事項
- 地域の産業支援に関する事項
 - ・障がい者の自立支援に関する協力
 - ・道産木材の普及啓発
- 道政広報への協力に関する事項
 - ・店内へのポスター・ちらしの設置
 - ・道が主催するイベントへの協力
- その他双方が必要と認められる事項
 - ・アイヌ文化の振興

「藤丸百貨店」は、行政機関と連携協定を結ぶのは初めてでしたが、今後は十勝管内の各市町とも連携を深め、地域百貨店として十勝ブランドを全国に発信していくこととしています。

「藤丸百貨店」は、地域の発展とともに事業展開してきた地元企業として、今後も地域に根ざした、地域貢献の取組を連携して進めていくこととしています。